

## 第1回新居浜港長期構想検討委員会・幹事会 議事録

- 1 開催日時：令和7年11月6日(木) 13時00分
- 2 開催場所：リーガロイヤルホテル新居浜 1階 石鎚
- 3 出席委員：出席者名簿のとおり
- 4 議事要旨
  - (1) 開会
  - (2) 新居浜市長 挨拶
  - (3) 委員会設置要綱 事務局より説明
  - (4) 委員長選任
  - (5) 議事
    - i) 事務局から資料説明
    - ii) 意見交換 別紙のとおり
    - iii) その他 事務局から今後の予定について説明

第1回新居浜港長期構想検討委員会・幹事会 意見

委員区分	主な意見
学識経験者	<p>・新居浜港の充実を軸として、長期的な視点で様々な可能性を考慮しているのは適切。一方で、網羅的で総花的な印象があるので、戦略や具体的な取組については関連性を整理して検討、改善いただきたい。</p>
	<p>・港湾計画の改訂においては、新居浜港の強み・機会を活かすために、弱みの改善に注力していく方向性が望ましい。とりわけ、既定の港湾計画に示された港湾施設の充実、すなわちCNPを含む菊本岸壁及び港湾道路菊本線の実現が早期の対応として望まれると思慮される。</p>
	<p>・港湾計画の改訂も見据え、長期構想の戦略と具体計画との関連性を可能な限り検討してほしい。また、整備による投資や経済波及効果にも可能な範囲で言及いただきたい。</p>
	<p>・地域の経済活動を支えるインフラとして新居浜港は重要であり、港湾整備における市民の理解を深めるための情報発信を取組に加えていただきたい。</p>
	<p>・基本理念について、「時代に即して」とあるが、先を見据えて動くことが重要なので、「あかがねの歴史をつなぎ、未来を見据え、時代に即して、地域を支え、進化し続ける港」としてはどうか。</p>
	<p>・P83の2つ目の●について地域住民の幸福（Wellbeing）という観点が抜けている。この視点を位置付けて説明を追加してほしい。</p>
	<p>・脱炭素に加えて、サーキュラーエコノミー（資源循環）の観点においても検討していただきたい。</p>
	<p>・大規模自然災害が発生して被害を受けた場合に、廃棄物処理の課題が必ず発生するので、これらも考慮していただきたい。</p>
港湾関係者	<p>・我々の組織では、昨年から防災減災対策、住友系企業との共存共栄、安定した事業の推進について議論してきたが、計画では、産業用道路・菊本沖・新居浜マリナーに接続する道路等の整備、海拔の低い道路に対する防災減災対策等の観点が示されており、可能性のある計画として、ぜひ進めていただきたい。</p>
	<p>・新居浜港や周辺地域の発展は、住友系企業によるところが大きいため、住友の発展に寄与するかどうかの観点で長期構想を策定していただきたい。</p>
	<p>・将来的な海上輸送は、航路設定の自由度という観点からも、フェリー船よりもRORO船が主流になっていくと考えている。RORO船をどのように導入するかを考えて菊本沖の計画を進めてほしい。</p>
	<p>・様々な可能性を考慮した網羅的な長期構想となっている印象を受けるので、内容の絞りこみ等を行った方が良いのではないか。</p>
	<p>・多岐にわたって課題があり、取り組んでいく必要性を感じた。一部にフォーカスして取り組むことも必要かもしれないが、どの課題も重要であり、網羅的に対応していく必要があると思うので、方向性は良いと思う。地元の皆さんと共に議論して進めていければと考えている。</p>
	<p>・2024年問題に関して、陸上輸送だけでなく、海上輸送においても制度改正がなされ、船員も労働時間上限の規制があり、船舶稼働が落ちている。そういったことも資料に考慮しておいたほうが良い。また、船員の労働時間規制により、RORO船が海上輸送を全て代替できるとは限らないことを考慮して検討いただきたい。</p>
<p>・新居浜港では現状、大型の外航船が入港できないので、国際標準に対応した港湾の拡張が必要である。</p>	

第1回新居浜港長期構想検討委員会・幹事会 意見

委員区分	主な意見
港湾関係者	<p>・内航タンカーにおいて、船舶を大型化したとしても、新居浜港だけでなく、相手港側も受入環境が確保されている必要がある。効率的な荷役に適した船舶の検討が必要である。</p>
	<p>・物流は海運だけでなく、陸運もある。幹線道路の整備も重要であるため、優先的に取り組むべきである。</p>
	<p>・防災減災の観点から、東西南北の道路整備は重要性が高く、港湾と連動した整備が必要であると考える。</p>
	<p>・最近ではLNGの取扱いが増え、船舶の大型化が進んでいる。大水深の岸壁整備に加えて、船舶大型化に対応した航路整備や、近隣海域での規制等、総合的に整備を進めていく必要がある。</p>
	<p>・クルーズ客船については、岸壁に接岸せず、沖に停泊し入港している都市もみられる。様々な手法について検討いただきたい。</p>
	<p>・クルーズ船の取組みで、インバウンドの視点も考慮いただきたい。</p>
	<p>・国際バルク貨物の拡充は新居浜港において最重要課題である。新居浜市は松山や高松、高知から等間隔の距離にあり、地理的特性を利用した開発が必要。</p>
	<p>・新居浜港の周辺地域には、プラントメーカー等も多数に立地・発展しており、地域産業に目を向けた貨物を受け入れる考え方も重要である。</p>
行政機関	<p>・現状整理や課題については、一般論的なまとめ方になっているように見受けられるので、精査が必要である。</p>
	<p>・本委員会の議論の中で様々な要望や課題が出てきたことを考えると、現在の取組以外にもどのような取組が必要かを再整理する必要がある。</p>
	<p>・ゾーニングにおいて、施設の老朽化に対応した更新・機能転換や再編等の視点も盛り込んでいただきたい。</p>
	<p>・脱炭素に向けた取組みの中で、動力源がアンモニア、水素や電力等多様化している。インフラ供給における課題も生じてくると思う。これについても検討協議を進めていただきたい。</p>
	<p>・モーダルシフトは国の方針でもあるので、事業者が海運を選択しやすくなるような環境整備を進めていただきたい。</p>
	<p>・本長期構想における委員会及び幹事会の開催回数を2回としているが、一般的には3回である。進め方については一度検討いただきたい。</p>
	<p>・ゾーニングに関して、現行のものほとんど変わっていない。発展の余地については再度検討していただいても良いかと感じた。</p>
	<p>・協働防護の視点が盛り込まれているが、新居浜港の場合は専用岸壁と公共岸壁で明確に区別されている印象を受ける。</p>